

令和 8 年度第 1 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議
議事要旨（父島・母島）

■ 父島：令和 8 年 6 月 5 日（金）午前 10 時 30 分から 11 時 55 分まで
小笠原村役場本庁舎会議室 A

■ 母島：令和 8 年 6 月 4 日（木）午前 10 時 00 分から 11 時 30 分まで
小笠原村母島支所大会議室

■ 議事

（1）2024 年度の温室効果ガス排出量推計結果について（報告事項）

- ・ 公共施設の改築や増加、人口増加のための施策なども排出量に影響すると思われるため、総量だけではなく、一人当たりの削減目標も示した方がいいのではないか。
- ・ 来島者の増加も温室効果ガスの排出量に影響するものと考えられる。
- ・ 宿泊施設では相部屋から個室へと宿泊の形態が変化したことで、空調の負荷も増加したのではないかと。
- ・ 観光船の利用者増加も排出量増加に影響する。個別に実施しているツアーをまとめて行うなど効率化も検討すべき。
- ・ 母島太陽光発電所の稼働により、どの程度の排出量の削減効果が得られるか期待する。
- ・ 2030 年を目標年としているが、2028 年頃までには、その先を見据えた村の新たな目標を設定する必要がある。

（2）一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗について（報告事項）

- ・ リサイクル率の目標を達成するために必要な事項は何か？
- 目標は現実的に達成可能な水準で定めている。具体的にはリサイクル推進を強化する。
- ・ 昨年度アイデアが出た転入者への小笠原村での不用品リスト配布の取組みはごみ削減に寄与するのではないか。
 - ・ 粗大ごみを有料化する場合には、十分な周知期間を設けるべき。

（3）母島太陽光発電所の発電状況について（報告事項）

- ・ 父島でも再生可能エネルギーが導入できるとよい。
- ・ 父島は建物の屋上が多くあるので、これを活用して太陽光発電が普及できないか。
- ・ 蓄電池が高価なため、蓄電せず日中の発電を日中に使うことも考えられる。
- ・ 1 家族が暮らすために必要な太陽光パネルと蓄電池のモデルケースを示すと、関心のある人が取り組みやすくなるのではないかと。
- ・ 既に村内で太陽光パネルを導入している事例を調査してみると出来ることが見えてくるのではないかと。
- ・ 太陽光発電だけでなく、風力発電など幅広く可能性を探ってはどうか。
- ・ 電力需要が高まる夏に向けての推移も気になる。
- ・ 再エネ 100%を達成した日数が思ったよりも少ないと感じた。

（4）みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金について（報告事項）

- ・ 単に勉強会を開くのではなく、送迎をまとめて行うことや、村営バスを活用しやすくする仕組みなど、実際にエネルギー使用量削減が期待される取組みに活用されるとよい。
 - ・ 学校や部活動で子ども達がアイデアを出した企画も対象となるか？
- 申請者が、学校という公的機関ではなく発案者のグループであれば可能。

(5) 電力使用量測定器活用による省エネ推進について（協議事項）

- ・ 買換えに伴う製造、輸送、廃棄時の温室効果ガス排出量や必要経費もわかると、古いものを大事に使うのがいいのか、新しくした方がいいのか判断がしやすい。
- ・ 現在使用している冷蔵庫と、買い替える冷蔵庫の電気使用量の比較ができないか？
- 環境省のホームページ「しんきゅうさん」が、機種の種類や型番などを入力すると比較結果を確認することができる。<https://ondankataisaku.env.go.jp/shinkyusan/>
- ・ 現在使用している冷蔵庫がどの程度劣化しているか比較方法があるか。
- 経済産業省の「省エネ型製品情報サイト」に記載がある機種は、標準の年間電気使用量を確認できる。<https://seihinjyoho.go.jp/>
- ・ 月々の電気使用量の明細を見直すことも省エネにつながるので、推進できるとよい。
- ・ 村民にとって大型家電の買換えそのものが、保管や搬入、設置と自ら行う必要があり、苦勞する。高齢者は特に大変である。買換えしやすい環境を整える必要がある。

(6) その他

1) クールシェア可能な場所について

- ・ 地域福祉センター
- ・ 小笠原ビジターセンター
- ・ 小笠原世界遺産センター
- ・ ガジュ下
- ・ 母島支所
- ・ 新村民会館

2) 省エネのアイデアについて抜粋

- ・ ポータブルのソーラーパネルと蓄電池の貸出があると、イベントや屋外作業時に活用できるのではないかな。
- ・ 遮光ネットやよしずの活用も効果的ではないかな。

以上